

緑内障治療は長い旅路 ～継続が可能な治療法の選択～

日時 2019年10月25日(金)
7:30～8:30

場所 第8会場
国立京都国際会館 1F RoomE

座長の言葉

座長



相原 一 先生
(東京大学)

緑内障に罹患すると患者は生涯にわたり治療を継続することになる。患者は緑内障になれば将来失明するかも知れないと考え、また点眼治療が開始されると一生点眼するのか、とも思って悩んでしまう。もちろん一方では現実に背を向けて脱落してしまう患者もいることは事実である。ともかくも、通院して治療に参加してくれるように患者には最善を尽くす必要がある。まずは生涯つきあうかも知れない最初の一本の選択が重要である。有効性、安全性を考慮した適切な初期治療が鍵を握る。追加加療の状況では、多剤併用点眼のアドヒアランスの維持が大きな問題となる。患者の病期、眼の状況や個人の背景を総合的に考えて、その時々々に適切な治療手段を選択する必要がある。本セミナーを通して、緑内障の長い旅路をサポートして生涯視機能を維持できるよう、患者に寄り添った治療選択を考えたい。

演題 1

長い旅路の始まり 初期～中期

本庄 恵 先生 (東京大学)

演題 2

長い旅路の途中 中期～後期

三木 篤也 先生 (大阪大学)

緑内障治療は長い旅路 ～継続が可能な治療法の選択～

日時

2019年10月25日(金)
7:30～8:30

場所

第8会場
国立京都国際会館 1F RoomE

座長

相原 一 先生 (東京大学)

1989年 東京大学医学部医学科卒業眼科入局
1998年 東京大学大学院生化学細胞情報部門卒業 医学博士
1998年 東京大学医学部眼科 助手
2000年 カリフォルニア大学サンディエゴ校
ハミルトン緑内障センター 留学

2003年 東京大学医学部眼科 専任講師
2012年 東京大学医学部眼科 准教授
2012年 四谷しらと眼科 副院長
2014年 東京医科歯科大学医学部眼科 特任教授兼任
2015年 東京大学医学部眼科 教授



演題 1

長い旅路の始まり 初期～中期

本庄 恵 先生 (東京大学)

1995年 京都大学医学部卒業 京都大学眼科入局
1997年 京都大学大学院医学研究科視覚病態学大学院
2001年 京都大学大学院医学研究科視覚病態学助手
2004年 北野病院眼科副部長

2006年 京都大学大学院医学研究科視覚病態学助手
2007年 東京都健康長寿医療センター
(2009年より医長)
2015年 東京大学医学部眼科学教室講師



演題 2

長い旅路の途中 中期～後期

三木 篤也 先生 (大阪大学)

1997年 大阪大学医学部医学科 卒業
1999年 社会保険紀南総合病院 医員
2006年 大阪大学大学院 卒業
2006年 大阪大学医学部附属病院 医員

2009年 大阪大学医学部 助教
2012年 カリフォルニア大学サンディエゴ校 客員研究員
2013年 大阪大学医学部 復職(学部内講師)
2016年 大阪大学医学部 講師

